

令和元年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	107	学校名	西条特別支援学校	校長氏名	立石 均	全・定・通	本校
----	-----	-----	----------	------	------	-------	----

1 評価結果の分析

(1) 成果

- ・アセスメントシート Ver3の活用や新学習指導要領に則り、各教職員が、児童生徒の実態把握に努め、「課題の抽出・関連整理シート」を活用して児童生徒の重点課題を設定し、個別の指導計画作成の根拠とすることができてきている。
- ・7月の校内授業研究会では、授業者がシートを作成し、研究協議会でどのような力を各教科・領域で関連させると効果的であるかを検討することで、各個人で作成するシートの作成について共通認識を図ることができた。更に夏季休業中に個々が作成したシートを持ち寄り、小グループで検討し、児童生徒の実態や課題を共有し2学期に全教職員で取り組むことができた。また、冬季休業中にはその取組について同じ小グループで確認することができた。
- ・避難訓練に参加した職員を対象にアンケートを行い、適切な行動の確認や自分の行動の見直しができただかの評価を行った。肯定的評価の割合が97%と高く、訓練によって実践力が高まったと職員が感じていることが分かった。火災や天災、救急事案などは突然起るものであり、状況もその時々で様々である。基本的な行動の仕方について職員一人一人がしっかりと理解し、行動できるように引き続き取り組んでいく。
- ・文化祭終了後にアンケートを実施し、ステージ、展示、パザー、練習や準備、話し合い等において児童生徒が個々に表現することができ、文化祭全体を通して達成感(自分が思っていた以上にできた)を感じるということができたという問いに対して、よくできた・できたと回答した児童生徒が75人中73人であった。
- ・2つの公開講座を開催した。アンケートの回収率は90.7%、そのうち好評を得たのは90.3%だった。2講座ともに好評を得ることができた。巡回相談は講師依頼5件、電話相談はオープンスクールや入学に関するもの7件、転入及び入学に係る教育相談が50件だった。
- ・キャリア教育で育成すべき4つの資質・能力の(ア)人間関係形成・社会形成能力、(イ)自己理解・自己管理能力、(ウ)課題対応能力、(エ)キャリアプランニング能力、についてのアンケートを行ったが、肯定的な評価の割合は、(ア)が81%、(イ)が83%、(ウ)が66%、(エ)が62%であった。過去2年間のアンケートの結果と比較すると、すべての観点で最もよい結果であった。これは、例年実施してきたキャリア教育の研修会や事業所説明会等の取組によって、各学部において教職員のキャリア教育の意識が高まり、それを指導に生かすことができていると考えられる。

(2) 課題

- ・今年度は学校評価アンケートの項目に「業務改善と働き方改革推進」という項目を設け、3つの設問でアンケートを実施して分析した。それぞれの設問における肯定的な回答の割合は、①「働きやすい職場環境づくりに向けた具体的な取組がなされていると思いますか」では、61%で一番高く②「業務改善に向けた学校組織として取り組んでいると思いますか」では、59%③「慣例的に業務をこなすのではなく、具体的な業務削減の視点からの協議がなされていると思いますか」では、47%と低い回答だった。具体的な業務削減にむけた協議はまだ現状では十分にされてなく、今後確実に取組、実施していく必要がある。

2 今後の改善方策

- ・再来年度から個別の指導計画作成において校務支援システムを活用することから、冬季休業中に「個別の指導計画のシステム化に向けた自立活動アセスメントシートの活用について」全職員で研修を行い、次年度作成する「自立活動年間指導目標設定に向けた指導すべき課題の抽出・関連シート」について全体に周知し、3月中旬を締め切りに在校生全員のシート作成に取り組む。
- ・次年度においては、新たな研究テーマを設定し、この3年間で取り組んできた「主体的な学びを促す授業づくり」に加え新たな視点での授業改善に取り組んでいく。
- ・衛生委員会や校務運営会議において、積極的に働き方改革に向けた協議を継続していくとともに、学部会や分掌会でも、業務削減に向けて個々の教職員の意識を高めてアイデアを出し合い、他校の情報を積極的に取り入れた実感を伴う具体的な取組を推進する。
- ・今年度、年度初めに救急搬送を行う事例が複数あったことや火災等があったときの動き方を早めに確認できるようにするために、来年度は火災避難訓練・救急体制についての訓練を早めに行う。
- ・年間を通じて、ピースキャンドルづくり・平和集会・文化祭・全校集会等の行事を、児童生徒会執行部が中心となり、話し合いを行い、企画運営することができた。来年度も、さらに児童生徒会執行部を中心とした活動が行えるよう、地域資源を活用しながらサポートできる体制づくりを行う。児童生徒が主体となって取り組んでいくことができるよう学校行事の見直しを行い、各学部・学年と連携を行いながら各行事等を進めていく必要がある。
- ・アンケート結果を参考に、来年度の公開講座について早めに検討する。教育相談や巡回相談での気付き等を、分掌や学部で共有し、必要に応じて他分掌と連携していきながら本校の取組を外部に積極的に発信していく。
- ・キャリア教育をますます充実させるために、児童生徒の将来の目指す子供の姿を明確にし、それに向けて教育課程を変更したり、特別活動の年間指導計画についてキャリア教育の観点から整理したりしながら、校内の共通理解を図るために研修会を行い、各学部間や教務部との連携を今以上に緊密にしていく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・学校関係者の評価は概ね良い評価をいただいた。目標達成のためのより具体的な行動計画の作成及び評価指標を、より客観的な根拠のあるものにしていくことで、改善策をより具体的にしていける必要がある。